



うもれ木

魚津埋没林博物館広報誌

第22号

発行日：平成17年3月31日

編集発行：魚津埋没林博物館

印刷：魚津印刷（株）

水の色 水の形



液体の水は「方円の器に従う」という言葉があるように、定まった形がありません。川を流れる水は、まさに器に収まらない状態で、瞬間ごとに形が変わります。そしてその色も、物体としては無色透明なはずですが、時や場所によりさまざまに変化して見えます。たまには、あらためて水をよく見てみませんか。



魚津で見る水の循環

学芸員 石須 秀知

地球は、水の存在によって生命あふれる惑星となっています。水なしには、地球上の生物は生きることができません。しかし、陸上の水の分布は均一ではなく、熱帯多雨林もあれば、砂漠もあります。その中で、日本は比較的降水量が多く、とりわけ、魚津を含む日本海沿岸地域は、冬の降水＝雪が多いため水に恵まれた環境になっています。

日本海沿岸地域に多量の雪をもたらすのは、冬型の気圧配置によって大陸から吹き出す季節風と、日本海を流れる暖かい対馬海流、そして北アルプスをはじめとした山脈です。冬型の気圧配置のときに天気予報などで衛星画像を見ると、日本海に筋状の雲が多数発生しています。この雲を作る水蒸気は、対馬海流から供給されます。これらの筋状の雲は、北西の季節風によって日本列島に向かって流れてきます。もしも日本列島が平らならば、その雲は通り過ぎてしまい、多量の雪を降らせることはないでしょう。しかし、そこには流れをせき止める高い山脈があり、雲はそこで水分を雪として地上に落とすのです。



富山湾から立ち昇る蒸気霧

博物館付近の海岸で観察していると、富山湾の表面から蒸発した水蒸気が霧となり、雪

雲に吸い込まれていく場面を見ることがあります。富山湾は日本海全体からみれば小さく、水蒸気の量は多くはありません。しかし、わずかではあっても富山湾由来の水が雪雲に含まれていると考えてよいでしょう。

魚津市は北アルプス立山連峰の北端に位置し、最奥部には標高2000mを超える山岳を抱えています。雪雲がぶつかるこれらの山岳地帯には、ひと冬の間にも多量の雪が蓄積されます。この深い雪は、生き物の生存に不利な条件のように思われるかもしれませんが、温度と湿度を保つ機能を持ち、多雪地帯に生きる生物群にとって、越冬を助けてくれる存在となっています。冬の晴れ間には、雪に覆われて白く輝く峰々の雄姿を市街地からも仰ぎ見ることができます。



雪に覆われた魚津の山岳

山を覆う多量の雪は、春になると融け始めます。しかし、一度に融けるわけではなく、夏までの間にゆっくりと時間をかけてなくなっていきます。雪どけ水が供給される春から夏にかけての時期は、ちょうど植物たちが旺盛に生長する季節に合致します。この雪どけ水は、雨とともに森を育てる水源として働きます。森はこれらの水の恩恵を受け、多様な

生物のすみかを作り上げています。それと同時に、森が持つ保水力は、雨などの水が急激に流出するのを防ぎ、さらに、森を通過した水には、川や海の生物の生育に必要な栄養分を含んでいると考えられています。こうして水は、森を抜けて川へ流れ出ます。



雪どけの森

雨水や雪はまた、山を削り、谷を刻みます。山が削られてできた土砂は、川によって上流から下流へと運ばれます。川が山地から抜け出たところでは土砂が堆積し、扇状地が形成されます。扇状地は、おもに石や粗い砂でできているため、水が浸透しやすくなっています。浸透した水は、伏流水となって地下を流れ、扇状地の末端で湧き水となります。魚津では扇状地の末端が海に達しているため、海岸近くに湧き水が多く見られます。博物館が建つ海岸一帯に埋もれている埋没林も、扇状地の伏流水によっておよそ2000年もの間地中に保存されてきたと考えられています。現在でも、博物館の付近では自噴する井戸を見ることができ、埋没林が保存展示されている水槽の中にも自然の水が一部湧き出しています。

一方、地中に浸透しなかった水は、川の表面を流れます。昔は、川が扇状地の表面を網の目のように流れ、大雨のたびに流路が変化していたと思われます。さらに、土地の隆起によって傾斜が増すと、水流が扇状地を掘り下げ、両脇に崖状の段丘を形成するなど、万

年単位の時間をかけたダイナミックな変化もありました。現在では、川の流路は堤防によって固定され、大きく変化することはなくなりました。しかし、地形図を調べたり、現地を歩いたりすると、こうした過去の変化を読み取ることができることもあります。



片貝川扇状地を縁取る段丘

川は最後に海へ注ぎます。河口は、海から蒸発して大地に運ばれた水が再び海に帰り、一つの循環が完結する場所です。



片貝川河口

魚津市は、約200平方キロメートルの面積しかありませんが、海、山、川がワンセットになって水の循環を見せてくれるモデルのような場所なのです。

(水の循環は単純に海→山→川→海と巡っているわけではなく、いろいろな経路をたどっています。一つのモデルだと考えてください。)

シリーズ

埋没林の仲間たち ②1

ツバキ(ツバキ科)

赤い花を咲かせる野生のツバキには、暖地を中心に分布するヤブツバキと、雪国に分布するユキツバキ、それらの中間のユキバタツバキがあります。富山県では、海岸に近い暖かい場所にヤブツバキ、雪深い山地にユキツバキが分布し、その間にユキバタツバキが見られます。ヤブツバキは直立して大きく育ち、天然記念物に指定されている大木もあります。



ヤブツバキ(県天然記念物老谷の大つばき(氷見市))



ユキツバキ

それに対してユキツバキは、直立した大木にはならず、低木の藪をつくります。

* * *

現在の魚津市内では、ユキツバキやユキバタツバキは山地～丘陵に自生していますが、ヤブツバキの確実な自生地はないようです。

魚津埋没林では、昭和5(1930)年の調査で“ツバキ”の種子が記録されていますが、どの種類かは分かりません。海岸に近いため、ヤブツバキなのかもしれません。

お知らせ

●平成17年度の行事予定

☆企画展示

蜃気楼写真展 ————— 5月1日(日)～6月30日(木)
埋没林博物館の50年展 ——— 8月1日(月)～10月17日(月)
魚津ナチュラルギャラリー⑥-1月2日(月)～4月30日(日)

☆ふれあい学習会

食べられる草ど～れだ? ————— 4月23日(土)
四つ葉のクローバーみ～つけた ——— 5月28日(土)
くつつきむしでアート ————— 9月24日(土)
もみじで楽しく葉書づくり ——— 10月29日(土)
つるつるつくる ————— 11月19日(土)
冬の蜃気楼ウォッチング ————— 2月12日(日)

※企画展、学習会の詳細は下記までお問い合わせください。

ご利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)
- 休館日 12月～3月の月曜日、祝日の翌日、年末年始(4月～11月無休)
- 入館料 ・大人(高校生以上)・・・510円 ・小中学生・・・250円
- 交通 ・JR北陸本線魚津駅 } 下車1.5km (タクシー・・・5分)
- ・富山地方鉄道 新魚津駅 } (徒歩・・・25分)
- ・北陸自動車道魚津ICから3km車で10分

特別天然記念物 魚津埋没林博物館

〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂8141 (0765) 22-1049
ホームページ <http://www.city.uozu.toyama.jp/nekkolnd/>
e-mail nekkolnd@city.uozu.toyama.jp

